

写真に支えられて生きる

小滝真一 (第十九期生)



▲瀧沢千恵子さん(28期)と共に(平成24年度幹事総会にて)

●はじめに

『やまなみ』の執筆は成績優秀者が書くものかと思っておりますが、正直なところ在校当時はいつも成績ビリを競い合っていた私なので、優秀な先輩や後輩のなかに自分の文章が混ざっても大丈夫か、とても心配です。

人前で写真を撮る時に写真が私の趣味かと思われるようです。それで「何を撮りますか？」とか「機種は何ですか？」と聞かれると答えに窮します。写真の趣味にはテーマやジャンルがありますし、撮影した写真は作品

●自動カメラで撮影再開

一九九二年にC型ウイルスによる慢性活動性肝臓炎の診断があり、インターフェロン治療をしてウイルス排除をしたのですが、その薬の副作用による体力低下などで仕事以外は家でゴロゴロして過ごしていました。一九九七年にそのことを反省し、自動カメラを買い、記憶力を補い、外出して体力増強を図ることにしました。それで参加した行事を人前で撮影することを始め、写した方に写真をお渡しするよう心掛けてきました。二〇〇〇年には同期行事でも撮り始めましたし、ミレニアム記念でアトラクションの舞台写真を撮り、すっかり写真を撮る気になりました。(写真①)

●デジタルカメラ

出始めのデジタルカメラは高額で、起動が遅く、電池が直ぐ切れ、宇宙的美人に撮れるが、人間味のないグラフィック調に写り、感心しない物でした。二〇〇五年を境にフィルムカメラより安くなり、写真らしく写るので試しに使い始めました。フィルム画像是粉っぽくレリーフのように厚みのあるのですが、デジタル画像是すっきりとした印象です。但し、人物を撮ると肌が黄色くなり、フラツ

シュ撮影すると木像のように写るのには困りました。(この『黄色く』『木像』とは私の感覚で一般的な意見ではありません。)

二〇〇七年に対策(写真②③)を見つけ、現在ではデジタルカメラを使用しています。加えて、カメラ店のフィルムプリント技術がだんだんとおざなりになっている気がしてフィルムを使わなくなりました。また、私はA4より小さいサイズのプリントを主な目的にしていますので、六〇〇万画素のまま使っているうちにメーカーの修理や清掃対応期限が切れてしまいました。最近の高画質カメラに買い替えると、レンズやパソコンを入れ替え撮影法も変わるかもしれません。

間を掛けて見直すことになるので、上手く撮らないと結果が目瞭然に出してしまうという実に怖いものなのです。

三年前に公会堂で部活同窓の音楽会の撮影ということで気楽に出かけたところ、舞台上の人数がだんだん増えて指揮者一名、独唱者四名、楽団二十三名、合唱団四十八名となって一度に百枚以上の撮影が必要となり客席中央で聴衆と対峙するような形になりました。

一昨年、知的・身体障害者の作業所対抗の芸能会の折には、ある組で爆発的踊りが始まり対応調整に失敗して殆んどがボケブレになってしまいお詫びすることになりました。

困ったことに依頼者から撮影状況を前もって伝えていただけないことの方が多く、その場に着いてから起こることに對しては用意した機材で即時対応・最善策をしなければなりません。

●それで写真のメリットは

当初の狙い通りに記憶に最適で、写真を見ると連想して思い出し易いです。撮影時には状況判断して最善策を探すことで脳が活性化しますし、認知症予防にもなりそうです。失敗を恐れず人前に出ることで度胸が良くなり、撮り損なっても直ぐに気

写真撮影には失敗があります。時にはフィルムを破損したり、カメラが壊れたり、落としたりとかのハプニングも起きました。撮影中は後ろの観客の視界を遮り、作動音で雰囲気損なうこともあります。出来上がった写真は撮影中とは逆にゆっくり時